

「インターネット環境整備に係る検討会」 における検討について

2019年2月25日

安心ネットづくり促進協議会



I . 検討会の概要

1. 検討会設置の経緯

2016年7月	総務省 青少年タスクフォースにおいて、EMA・安心協といった関係団体の役割の明確化、青少年保護に向けた体制の確立及び「高校生プラス」の導入に伴い、対象コンテンツの継続的なモニタリングが求められた（※）
2016年12月	同タスクフォースにて、「フィルタリング利用促進検討会 報告書」を提出（安心協、TCA、EMAの3者による作成）
2018年3月	総務省、EMA、安心協（MNO3社含む）の関係者間で議論を重ねてきたが、課題解決の見通しが立たずEMAの廃止を決定
2018年6月	EMA廃止後の青少年保護に向けた新たな体制の確立と、「モニタリング」の実施等について、安心協として上記課題に対し総合的に向き合うことを目的として、安心協内にインターネット環境整備に係る検討会（以下、検討会）を立ち上げることを、安心協総会にて決定
2018年7月～11月	検討会を開催（全3回）し、議論をとりまとめた

※タスクフォースにおいて、関係者による解決が求められた事項

事項		対応団体
(1) 関係者の理解力の向上や普及啓発の重要性		安心協・FMNC
(2) 利用者・事業者双方にとって使いやすいフィルタリングの実現	高校生プラス（新モード）の導入	3キャリア（2017年3月導入済）
	ウェブサイト・アプリのモニタリング	EMA
(3) 青少年のインターネット利用環境整備のための体制の整備		安心協・EMA

2016年7月 総務省 青少年タスクフォース 「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する論点とその解決に向けた方向性」(事務局作成)

【議論のとりまとめ(抜粋)】

【フィルタリング対象の見直し】

- 有識者も交えた関係者間での議論を早急に開始するとともに、これと並行してその運用体制の在り方についても検討し、一定の結論を得るべき。
 - ① 青少年の使用実態やグローバルな基準も視野にいれた対象の見直し
 - ② 学齢に応じたフィルタリングの在り方とその具体的な導入方策
 - ③ 上記①及び②を進めるうえでの現行の仕組みの見直し等
(申請に基づく個別認定の仕組みの改善、[ウェブサイト・アプリに対する継続的なモニタリングの実施](#)、サイト・アプリ提供事業者による青少年保護に向けた一定の措置の実施、等)
 - ④ その他機関(行政機関や、ゲームなどのレーティングを行う機関等)との連携

2016年12月 総務省 青少年タスクフォース 「フィルタリング利用促進検討会報告書」(安心協、TCA、EMAの3者作成)

フィルタリング利用促進検討会

5. 今後の課題・各団体に期待される役割 (2/2)

分類	課題	備考	対応団体等	対応時期
リスクの監視・評価	(7)リスクのモニタリングとタイムリーな情報提供	個々のアプリ・サービスに関するリスクの注視・評価、必要に応じ情報提供・注意喚起	モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	2017年春

【検討会実施内容】

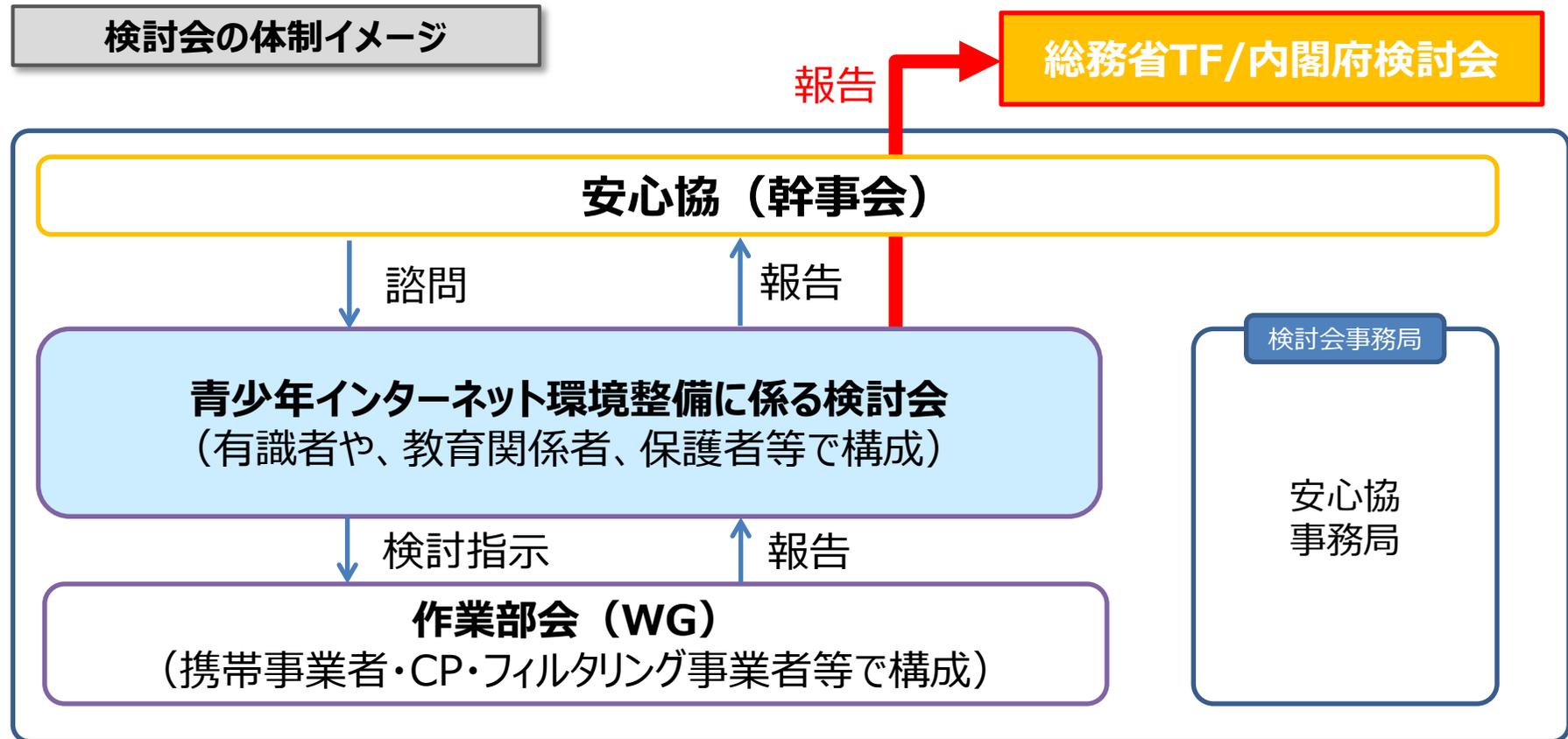
安心協検討会では、コンテンツやフィルタリングサービスの保護者や青少年の利用者視点での分析、評価を行った

【検討の目的】

1. 総務省青少年タスクフォースとりまとめに基づき高校生プラスに関するモニタリング（一部SNSが使えるフィルタリングの評価）を行い**総務省に報告すること**
2. モニタリングで得られたコンテンツ・フィルタリングサービスに関する情報を、フィルタリングサービス（カスタマイズ）を利用する際の**判断材料として保護者に提供することで、青少年のリテラシーに応じてインターネットやSNSを安全に賢く利用してもらう支援とすること**
3. フィルタリングサービスの利用上の気づきや課題等を、**フィルタリングサービス提供者（キャリア、フィルタリング事業者、OS事業者等含む）等に対し改善に資する情報提供を行うこと**
4. 本検討会の次年度以降の検討テーマ等に関して、検討すること

3. 検討会の位置づけ

- フィルタリングの利用促進を目的として、中立的な立場の第三者と青少年のインターネット環境整備に係る関係者とでコンテンツやフィルタリングサービスの調査分析を行い、保護者がフィルタリングサービス（及びカスタマイズ機能等）を利用する際の判断材料の提供等をめざす



4. 検討会の体制

検討会メンバー（敬称略）

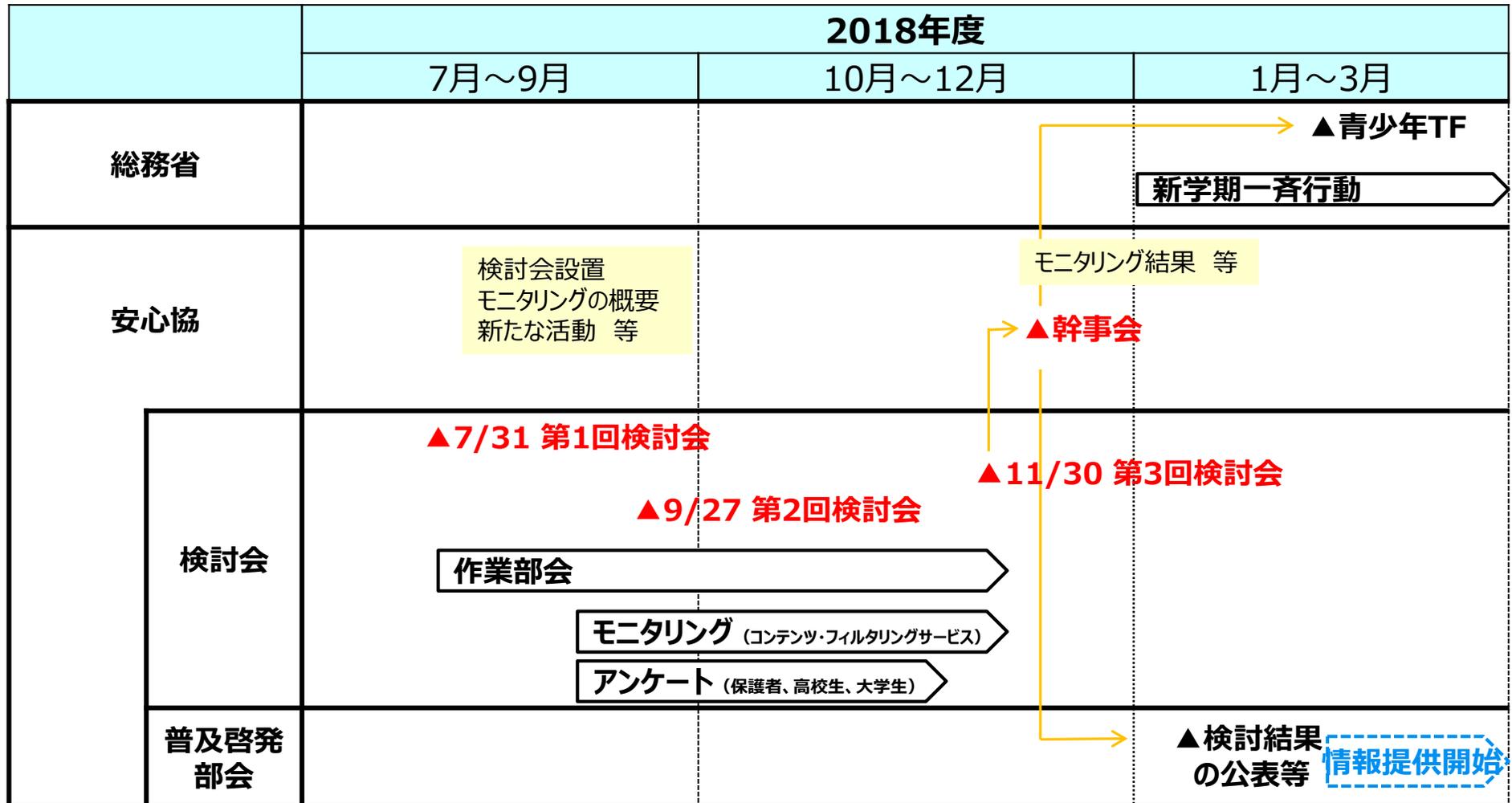
氏名	所属
(座長) 穴戸 常寿	東京大学教授
(副座長) 川島 芳昭	宇都宮大学准教授
柘植 寛	弁護士
石戸 奈々子	慶應義塾大大学院教授
西村 真由美	(公社) 全国消費生活相談員協会 IT研究会
齋藤 芳尚	(公社) 日本PTA全国協議会 副会長
金田 淳	(一社) 全国高等学校PTA連合会 専務理事

※その他、総務省、内閣府、文部科学省、経済産業省、警察庁がオブザーバとして参加

5. 開催・検討状況

■ 検討会は7月～11月に3回開催した（主な議事は以下の通り）

- ・ 第1回：検討会によるモニタリングの内容、アウトプットの方向性に関する議論
- ・ 第2回：調査設計、分析詳細についての議論
- ・ 第3回：答申（案）についての議論



Ⅱ. 検討結果

1. 検討結果の概要

■ 前掲の検討目的に従い、以下のような調査・検討を実施した

	調査方法	検討結果（答申）
1. 高校生プラスのモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア集計：利用率、利用者属性 ● アンケート調査：利用率、利用者属性、利用理由、満足度 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 一定の導入効果、提供意義があったと評価できる
2. コンテンツやフィルタリングサービスに関する保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ● コンテンツプロバイダ調査：事業者による取組状況 ● アンケート調査：子供のSNS利用状況、保護者の意識（利用許可、判断基準、情報源等） ● フィルタリングサービス調査：主要サービスの機能等 ● アンケート調査：子どものスマホ利用状況、スマホ利用の影響（懸念事項）、対応方法（ルール、ツール等）、家庭内ルールの状況、フィルタリングやツールへの認知・利用状況・評価 	<ul style="list-style-type: none"> ★ SNS利用について提供すべき情報 <ul style="list-style-type: none"> ● 子どものSNS利用やその判断に役立つ情報があること ● 家庭内での話し合い・情報共有、家庭内ルールの継続的な検討が重要であること ★ フィルタリングサービス利用について提供すべき情報 <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の関心に役立つツールが多く提供されていること ● 家庭内ルールやツールを使って、スマホ利用目的や使い方にあった対策をとること ● カスタマイズをすることで、スマホ利用のメリットを享受しながら安全に使うことができること
3. フィルタリングサービス提供者への情報提供・提案		<ul style="list-style-type: none"> ★ フィルタリングサービス提供者への改善提案 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定について極力簡素なものとするべき ● アプリごとに利用可否を選択（カスタマイズ）できる機能があると、より使いやすくなる
4. 次年度以降の検討テーマ等	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果をふまえた、検討会での意見交換・議論 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 検討会で出された意見もふまえ、何をやるかを含めて検討していく

調査結果

利用率・利用者属性

- ◆ 高校生であんしんフィルターを利用しているうちの33%が高校生プラスを利用しており、小学生、中学生で高校生プラスを利用している場合もある

利用理由、満足度

- ◆ 利用の理由は「高校生だから」の他、「SNSが利用できるから」、「周囲に勧められたから」など
- ◆ 利用者・利用経験者の6割近くは満足

評価のまとめ

- 高校生プラスは、一定数利用されており、利用者の満足度も高いことから、**一定の導入効果があった**
- 小・中学生も選択するなど**多様なニーズに対する選択肢が増え**、その結果**フィルタリング利用率の向上も想定される**という点でも、提供意義はあった

2. 検討結果 (2) スマホ利用や多様なツールについて

調査結果

子どものスマホ利用への意識

- ◆ 子どもの長時間利用(依存)について、気にする・関心を持つ保護者が多い
- ◆ 「スマホを安全に使わせるためには、家庭内ルールを決め、子どもに守らせることが重要」と考える保護者が多い
- ◆ 一方、ルールを作っているが守られていない、子どものSNS利用状況を把握していない、という保護者の声もある

フィルタリング利用状況

- ◆ 利用しない理由は、「アプリ利用やサイト閲覧ができない」「設定方法がわからない」「SNSが利用できない」が上位
- ◆ 自分が青少年だった時代の印象・古い情報に基づいて、フィルタリングを利用しないことを選択する保護者も多い

多様なツールの利用・認知

- ◆ OSによるフィルタリング（スクリーンタイム等）には、利用時間制限や、子どもの利用状況を把握できる機能も備わっている
- ◆ OSによるフィルタリングを利用している保護者の6割程度が満足しており、今後使ってみいたいという声も1~2割ある
- ◆ ツール全般について、利用時間制限等、有害情報遮断以外の機能の存在についての認知は低かった

その他

- ◆ 学校での啓発機会は少なく低頻度なことが多い
- ◆ 保護者が気軽に相談できる仕組み等があるとよい

評価のまとめ

- スマホ利用について、**継続的な親子間コミュニケーション**（子どものSNS利用状況の把握、トラブル事例の親子間での共有、家庭内ルールについての話し合いなど）や、**子どものスマホ利用時間の把握**が重要
- 保護者は、家庭内ルールの実効性を高めるために、**子どものリテラシーに合わせて、様々なツール（フィルタリング）を選択、活用**することが望ましい
- 保護者の選択肢として、さまざまな機能に加え、**学齢別に推奨されるフィルタリングレベルの設定**や、ネイティブブラウザの利用に加えて利用時間制限・利用状況把握も可能な**OSによるフィルタリング**なども有効と考えられる
- **OSによるフィルタリングについては**、利用者の満足度の高さや今後の利用を希望する声、「知らない」の回答が少なくないことから、**今後、広く周知し・提供**することが重要
- **わかりやすく簡潔なカスタマイズ方法の提供**や、**設定手順（例：アプリのダウンロードや、新規のユーザーID取得等）のできる限りの簡略化**なども望まれる
- 保護者が適切に様々なツール(フィルタリング)を選択、活用するためには、**ツール(フィルタリング)の認知度の向上、保護者向け情報の提供**が重要
- **教育現場との連携（プログラミング教育との関連づけも含む）、保護者が気軽に相談できるタッチポイント、保護者向け情報の作成・発信を行う第三者機関の検討**も必要

■ 調査結果をふまえると、保護者へのサポートとして、以下の情報提供を行うことが重要

【SNS利用について】

1. 安全に利用するために、開示・提供されている情報があること
2. 開示・提供情報に基づいて、SNSの利用判断を行う必要があること
3. 開示・提供情報に基づいて、家庭で子どもと継続的に（成長段階に応じて）話し合ったり考えること（SNSの利用状況を把握する、トラブル事例を共有する）が必要なこと、家庭内ルールを設け、成長段階に応じて継続的に考える必要があること

【フィルタリングサービス利用について】

1. 保護者が関心を持っていることに役立つ機能を持っているツールが多く提供されていること
2. 子どもとのコミュニケーションにより、子どものスマホ・SNSの使い方を把握した上で、ルールを定めてツールを使うことが望ましいこと（子どものスマホ利用目的や使い方にあった対策をとる）
3. 学齢別のフィルタリングなども参考として、必要なSNS、アプリ、サイト等が使えるようにカスタマイズすることで、スマホ利用のメリットを享受しながら安全に使うことができること

- 調査結果をふまえ、フィルタリングサービス提供事業者に対し、以下の点の改善を提案する

【フィルタリングサービス 提供事業者への 改善提案】

1. より多様で、より使い易いフィルタリングを提供することが、利用率の向上につながると考えられる

⇒ 設定について極力簡素なものとするべきではないか

2. 保護者の判断基準について、個々のSNSやアプリの利用目的、子どものリテラシー、そのSNSやアプリの利用によるリスク等により使い分けたいというニーズがある

⇒ アプリごとに利用可否を選択（カスタマイズ）できる機能があると、より使いやすくなるのではないか

3. 今後の取組

■ 検討結果をふまえ、今後は以下の取組を実施する予定

【保護者へのサポート (情報提供)】

検討結果 (答申)

- ★ 保護者に対し、以下の情報提供を行うことが重要である
 - SNS利用について (①有用な情報の存在、②それらをふまえてSNSの利用を認めるか判断すべき、③家庭内での継続的な話し合い・検討)
 - フィルタリングサービス利用について (①多様なツールの存在、②子どものスマホ利用状況を把握した上でのルール設定・ツール利用、③カスタマイズの有効性)

今後の取組予定

- ★ 以下の3ステップに基づき、保護者への情報提供を充実させる
 - 【ステップ1】 安心協Webサイトを活用して、情報提供体制充実の取組を開始 (※実施済)
 - 【ステップ2】 効果的・効率的な情報提供について検討
 - 【ステップ3】 情報のわかりやすさ、客観性等についての検討

【フィルタリングサービス 提供事業者への 改善提案】

- ★ フィルタリングサービス提供事業者に対し、以下の点を提案する
 - フィルタリングサービスの各種設定について、極力簡素なものとするべき
 - アプリごとに利用可否を選択 (カスタマイズ) できる機能があることが望ましい

- ★ 今後、フィルタリングサービス提供事業者との協議を行う

【スマホ利用や多様な ツール】

- ★ スマホ利用状況の把握、親子間コミュニケーション、家庭内ルール、ニーズに合った多様なツール・機能の利用、情報提供、設定方法簡素化、関係機関等との連携、が重要である

- ★ 上記の取組の他、OSによるフィルタリングに関する幅広い周知・提供について関係者と調整する



TOP



安心ネットづくり促進協議会

Japan Internet Safety Promotion Association (JISPA)

English Page >

サイト内検索



文字サイズ [標準](#) [拡大](#)

安心
ネットづくり
促進協議会
とは

出前講座・
研修会

青少年の
スマホ利用の
リスクと対策

青少年の
安心安全な
インターネット
利用

調査研究
委員会
活動報告

レポート

トップ / 青少年の安心安全なインターネット利用のために / SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ / SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ

SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ

SNS事業者（会員）における青少年保護対策の情報

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）には様々な機能があり、サービスごとに特徴も異なりますので、青少年のSNS利用を考えるときは、各サービスの特徴や注意点などを知る必要があります。

インターネット上にはSNSの利用方法について様々な情報が掲載されていますが、SNS提供事業者も自社サービスの注意事項を公表していますので、これらも参考にしてください。

以下に主なSNS提供事業者が公表しているサービス利用上の注意事項をまとめてありますので、SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成にあたって参考にしてください。

LINE

Twitter

Facebook

Instagram

SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ

→ [LINE](#)

→ [Twitter](#)

→ [Facebook](#)

→ [Instagram](#)



安心ネットづくり
促進協議会とは



出前講座・研修会

トップ / 青少年の安心安全なインターネット利用のために / SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ / LINE / LINE

LINE

◆安心して利用するために次のような取組みをしています

◆年齢情報を用いた機能制限

18歳未満の利用者、年齢認証を行わない利用者のLINE IDの検索機能を制限しています。

◆通報機能

LINEの友だちではない人からトークが送られてくると、注意書きとともに、「ブロック」「通報」のボタンが表示されます。身に覚えのない人からの迷惑なトークは、すぐにLINEに通報することができます。

◆独自の講演活動やワークショップ教材の開発

LINEでは安心・安全のための活動の一環として、全国の小中学校および高校における児童・生徒や保護者、教職員を対象に、インターネットリテラシーなどの啓発を目的とした講演活動を行っております。トラブルを未然に防ぐためには、インターネットとの上手な付き合い方やコミュニケーション方法について“自ら考える”啓発教育が特に重要だと考えており、教育学や授業デザインを専門とする大学の先生方と共同でワークショップ教材の開発及び実施をしています。

詳しくはLINE株式会社のホームページをご確認ください。

(<https://linecorp.com/ja/safety/parents>)

◆サービス利用前に次のようなトラブルが起こり得ることを子どもに伝えてください

◆未成年者のトラブル事例1 見ず知らずの人と友だちになってしまった
友だちによるトラブル

